

# 【09】 総務担当者不在時に災害が発生した際、ワーカーは防災用品をスムーズに利用できる

## 安心・安全の意識が高まる中、防災備蓄品は『ココにある』見える化することがコツです

平時に管理しやすく、有事にはすぐ使えるように

コロナ禍の有事の際には、防災担当者がオフィスにいない、備蓄品の接触や共有・・・といった課題が想定されます。

### ① オフィスに居合わせたワーカーのみで対応できる置き場所の見える化

Point 1 デッドスペースを有効活用できる

Point 2 執務エリアに配備することで、社員への周知ができ、有事にもすぐに取り出せる

### ② 非接触や非共有の備蓄品を選択し、感染対策に配慮

Point 1 1人1セットなので接触なく受け渡しができ、共有せずに使用できる



普段使いづらい収納庫の最下段に1日分の備蓄セットを配備する



社員数 = 備蓄セット数  
なので管理しやすい



普段使いづらい収納庫の最上段に収納ボックスを配置してヘルメットを配備



### パーツフィット <PARTS-FIT>

オフィスの収納庫にぴったり納まる幅・奥行き・高さで **省スペース収納** を実現した防災用品です。



また、更新やリニューアル・移転の際にも、無理のない組み替えが可能です。

Point1 備蓄内容が一目でわかる外装デザイン

Point2 必要数が算出しやすい入数

Point3 キレイにそろそろモジュール設計



コロナ禍の新しい働き方と防災  
～働く場所にフィットする防災用品～  
約2分の動画はコチラ

